

2019 年度事業報告

(平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

1. 庶務関係

- (1) 会員数の状況 (令和 2 年 3 月 31 日現在) () 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	総数
東北・北海道	110 (－6)	4 (－1)	114 (－7)
関 東	479 (±0)	38 (－13)	517 (－13)
東 海・北 陸	144 (－1)	3 (－4)	147 (－5)
近 畿	247 (+5)	28 (－7)	275 (－2)
中 国・四 国	125 (－3)	10 (－4)	135 (－7)
九 州	122 (－8)	2 (－4)	124 (－12)
海 外	8 (±0)	0 (±0)	8 (±0)
計	1235 (－13)	85 (－33)	1320 (－46)

団体会員 163 団体、賛助会員 48 団体、顧問 3 名

- (2) 代議員総会の開催

令和元年 6 月 2 日 (日) お茶の水女子大学にて開催した。

- (3) 年次大会の開催

令和元年 8 月 26 日 (月)、27 日 (火) 中村学園大学にて開催し、研究発表・事業報告会および学会賞授与式等を行った。

- (4) 一般社団法人日本調理科学会創立 50 周年記念出版事業の継続実施

創立 50 周年記念出版事業として、全国約 350 名の会員が記念出版委員会を中心に、引き続きシリーズ「伝え継ぐ 日本の家庭料理」の出版に取り組み、第 7 回～10 回配本分を刊行した。本事業は 2021 年度まで継続し、第 16 回配本まで刊行する予定である。

- (5) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 4 名、若手研究者発表奨励賞 3 名の表彰

- (6) 会議の開催

① 理事会	3 回
② 編集委員会	5 回
③ 情報管理委員会	2 回
④ 学会賞選考委員会	2 回
⑤ 刊行委員会	3 回
⑥ 選挙管理委員会	4 回

- (7) 選挙管理委員会を立ち上げ、2020-21 年度の代議員選出、理事候補者・会長候補者・副会長候補者・監事候補者の選出を行った。

2. 企画・広報関係

- (1) 年次大会を中心とした企画・広報を行った。

- (2) 6 月 2 日 (日) 講演会を開催し、「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」をテーマに柳澤幸江氏 (和洋女子大学 家政学部 教授)、ならびに「多様な米の調理特性と日本人の食生活・食文化に関する多面的研究」をテーマに前年度学会賞受賞者の綾部園子氏 (高崎健康福祉大学 健康福祉学部 教授) の講演を行った。

3. 常置委員会関係

- (1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第 52 巻 第 2 号 1,700 部、第 3 号 1,700 部、第 4 号 1,700 部、第 5 号 1,700 部、第 6 号 1,700 部
第 53 巻 第 1 号 1,700 部

編集・刊行

- ① 論文投稿状況 (平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

報文 27 編、ノート・資料 14 編 計 41 編

② 論文審査状況

令和2年3月31日現在

区 分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
平成29年度投稿	25	0	3	0	0	28
平成30年度投稿	30	1	4	8	0	43
2019年度投稿	8	11	1	7	14	41

③学会誌52巻2～6号および53巻1号掲載発行状況

区分	2号	3号	4号	5号	6号	1号	合計
報文	4	2	2	3	2	1	14
ノート・資料	2	5	3	3	2	4	19
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	1	6
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	1	3	1	0	0	5
ページ数	86	96	67	75	57	67	448

④学会誌は発行1か月以内に電子版をJ-STAGEにて公開した。

⑤投稿規程等の見直しを行った。

(2) 情報管理委員会

①事務局と協力しホームページ等の管理、運用を行った。

②2019年度大会演題登録はアトラス社のConfit Submissionを利用して行った。

研究発表要旨をJ-STAGEにて公開した。

③メール・ニュースを4月5日号、5月31日号、6月13日号、7月23日号、9月12日号、11月6日号の6回発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を11月に行った。

④複写複製を委託している(一社)学術著作権協会にて転載許諾サービスの運用も4月1日より開始されたことを受け、委託追加を申請し5月22日より利用可能となった。個人会員・賛助会員からの許諾申請については学会独自のルールを作り、これまで同様事務局と協力して対応している。

⑤12月初旬、事務局に会員よりPCにウイルス感染の恐れがありその影響がでる可能性の連絡あり、その後news@jscs.ne.jp名義等の不審メールが事務局に着信、HPトップページに注意喚起を掲載した。

⑥学会ロゴマーク商標権の令和11年までの存続更新申請を行い、認可された。

4. 渉外関係

(1)日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。

(2)下記の関連学協会と事業の共催、協賛、情報交換を行った。

(一社)日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学会、(公社)日本食品科学工学会、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)塩事業センター、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、(特非)うま味インフォメーションセンター、日本食品・機械研究会、日本熱測定学会、(公社)日本冷凍空調学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会

5. 研究委員会関係

(1)災害時メニュー開発に関する研究委員会は、2019年度大会において認定NPO法人キャンパーとともに大会実行委員会の協力を得て、8月26日(月)昼食のデモ調理(100食)を行い、デモ調理時のアンケートをまとめた。また同日に報告会を開催した。2020年度大会でのデモ調理の準備を実行委員会とともに始めた。

(2)次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会は、2019年度大会において都道府県別に「副菜」をテーマにして、ポスター発表した。46都道府県の研究委員が参加した。また平成28・29年度ポスター発表データをCD化し研究委員に配布した。引き続き2020年度大会で平成30、2019年度ポスター発表データのCDを配布するためそのデータ収集を行った。

6. 特別委員会関係

刊行委員会は、創立40周年記念事業である日本調理科学会監修のクックリーサイエンスシリーズの刊行に引き続き取り組んだ。